

岩手県野田村の支援活動報告（2011年5月6日）

山口恵子（人文学部）

4回目の野田村支援活動は、ゴールデンウィークの後半にあたる2011年5月6日（金）に行われた。一日中、天気恵まれ、風は冷たいながらも少々汗ばむ陽気となった。本日は、これまでのように弘前大学人文学部ボランティア・センター主催の支援活動ではなく、弘前市のさまざまな団体と個人が協同する「チームオール弘前」として、新たな組織編成のもとでの、一回目の活動となる。この日から、「弘前大学人文学部」の名称入り、まばゆい蛍光イエロー色のジャンパーも配布され、チームとしての一体感も高まる。

活動参加者は、大学生16名、一般11名、教員5名の計32名である。性別では、男性20名、女性12名である。大学生の学部別にみると、最も多いのは理工学部の6名で、続いて、人文学部5名、農学生命科学部2名、教育学部1名、医学部看護学科1名、北海道教育大学1名という構成になる。このうち初参加の人が、少なくとも9名を数えた。

野田村役場の横にプレハブ建てにて設置されている野田村災害ボランティア・センターの方の話によると、この日のおよそ正午時点でのボランティア数は、111人であり、10の団体参加と12名の個人参加があった。団体で最も規模が大きかったのは、東京から1泊2日の予定で参加しているボランティア・ツアー団体で、37名であった。次に大きな規模が我々の「チームオール弘前」であり、30名の参加である。本日の野田村のボランティア数の3割弱を我々のチームが占めていることになる。

野田村災害ボランティア・センターを通じたボランティア活動人数の推移をみると、最も多かったのは4月23日（土）の349名であり、この日は、弘前市役所の募集により、マイクロバスが数台を連ねて支援に行ったという伝説の日である。センターの方によると、本日の111名という数は「標準的な数」であるが、もっと人手が欲しいとのことであった。

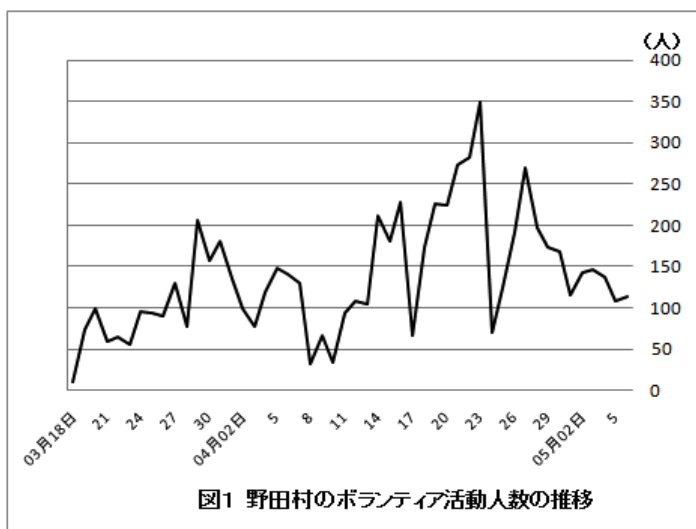


写真1 ボランティアセンターの前に、午前9時頃に、活動希望者はいったん集合し、ここからセンターの方の指示に従って、まとまって活動場所へと移動する

出典) 「5月6日までの岩手県内災害ボランティアセンターの活動状況」より作成 (「すっぱりボランティア岩手」岩手県社会福祉協議会・地域福祉企画部・ボランティア・市民活動センター) : <http://www.iwate-shakyo.or.jp/vc/index.html>

本日の支援活動は、男性陣が側溝の泥上げ、女性陣が個人宅のガレキ撤去と、大きく二手に分かれて行われた。側溝の泥上げは、スコップでの泥あげとネコ車での運搬に分かれて作業を行った。みな道具の扱いにだいぶ慣れてきていて、スイスイ進んだ。結局、細い道の両側の側溝を1キロ近く泥上げし、最後は側溝のふたがきちんとかぶせられて、道はすっきりと整えられた。女性陣は、個人宅のガレキ撤去である。ほとんど土台しか残っていない家に、あまたの木切れや、泥、ガレキが分厚く積もる。それをスコップで掘り、手がかき集め、巨大な土嚢に運んでいく。最後はおよそ15個の土嚢が満杯になった。学生たちは、少しずつ家の土台が見えてくるのに喜びを覚えながら、地道な作業に取り組んだ。



写真2 側溝の泥上げの様子。スコップなどで泥をあげる人と運ぶ人に分担しつつ、どんどん片付ける



写真3 個人宅のガレキ撤去の様子。巨大な土嚢が時間を追って増えていく。

16時前に作業は終了した。参加者からは、「今日が一番きつかった」「でも他のボランティアの人と話ができてよかった」という声が多く聞かれた。さらに、本日はスペシャル企画として、活動後、桜満開の弘前公園へと繰り出し、花見・交流会を行った。授業があって支援活動には参加できなかったが、花見だけでも参加したいという学生もぞくぞくと集まり、楽しくも、お互いを知り、語りあう、良い機会になった。



写真4 最後には道具を洗って所定の場所に返す。じんさんと成田さんと学生の連帯感があふれる。



写真5 桜満開の弘前公園にて、花見で交流。歌あり、踊りあり、語りあいの楽しい会になった。